

中国人留学生の留学の成果と満足度の関連要因 —困難への対処方略を中心に—

1

お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科
博士後期課程

張 慧穎

g1970317@edu.cc.ocha.ac.jp

研究の背景

- 高等教育の国際化
 - 日本における留学生の増加
 - 留学生問題についての研究
 - ポジティブな側面からの研究が注目
 - 問題解決能力の大切さ
-
- ➔ **・ 困難への対処方略が留学の質に影響か**
 - ・ 日本における留学の成果、満足度との関連**

先行研究

➤ 対処方略

➤ 問題焦点型、情動焦点型

(Lazarus & Folkman, 1991)

➤ 大学生の対処方略が身体的・精神的健康に影響

(今留, 2008)

➔ 日本における中国人留学生の対処方略及びその効果が検証されていない

先行研究

▶ 留学の成果

▶ 能力の向上、グローバル意識、自己の成長
(新見, 2017)

▶ 知識、技能・思考力、態度、価値
(黒田, 2007)

先行研究

▶ 留学の成果と満足度の影響要因

▶ 自主的な勉学、留学中の多様な活動への参加
(黒田, 2007)

▶ 友人の数、経済的な満足度、差別への認識、留学前に得た情報 (Sam, 2001)

▶ 中国人留学生の留学の成果と満足度、及びその影響要因に関してまだ明らかにされていない。

研究の目的

中国人留学生の留學生活における困難への**対処方略**と**留學の成果**はどのようなものか、またそれらが**留學の満足度**とどのような**関連**があるかを明らかにすること

研究課題

- ➡ RQ1 中国人留学生が留学中に直面する困難への**対処方略**はどのようなものか
- ➡ RQ2 中国人留学生が留学中に自己評価による**留学の成果**はどのようなものか
- ➡ RQ3 中国人留学生の対処方略と留学の成果、留学に対する満足度との**関連**はどのようなものか

研究方法

- 調査方法：質問紙調査
- 対象者：
日本の大学・大学院に在籍している
中国人留学生105名
- 調査時期：2021年4月～6月
- 倫理配慮：
お茶の水女子大学の倫理審査委員会の
審査承認を得た上で実施

調査項目

➡ 対処方略：

尾関（1993） 14項目 4件法

➡ 留学の成果：

新見（2017）など参照 17項目 4件法

➡ 留学の満足度： 5件法

分析方法

- ▶ RQ1、RQ2 :
因子分析（主因子法・プロマックス回転）
- ▶ RQ3 :
ピアソンの相関分析、パス解析

分析結果

RQ1 対処方略

表1 対処方略に関する因子分析

項目内容	I	II	III
第I因子 問題解決努力 ($\alpha=.689$)			
自分で自分を励ます	.577	.321	-.151
今の経験はため	.577	.025	-.075
情報を集める	.577	-.333	.062
現在の状況を変えるより努力する	.577	.025	-.096
人に問題解決に協力してくれるよう頼む	.518	-.176	.235
第II因子 問題回避 (情動)			
先のこと	.181	.181	-.006
何らかの	.181	.181	.179
なるようにはたらく	.181	.181	.342
第III因子 問題回避 (行動) ($\alpha=.549$)			
時の過	.181	.181	.772
こんな	.181	.181	.499
累積寄	.181	.181	42.971

分析結果

12

RQ2 留学の成果

表2 留学の成果に関する因子分析

項目内容	I	II	III	IV	V
第I因子 能力の向上 ($\alpha=.852$)					
問題解決能力が高まった	.794	.094	-.136	.000	.121
自己効力感が高まった				.041	.155
価値判断を留保して、なぜそうなのかわかなくなった				-.079	-.099
ストレス耐性が強くなった				.190	-.010
論理的思考力が高まった	.600	.189	-.009	-.112	-.087
リスクを取ることに、チャレンジすることに関する意識が高まった	.598	-.089	.185	.074	.055
第II因子 教員との関係の構築					
教員の勉強における指導が丁寧だった					
教員との間には信頼関係が築けた					
自分を認めてくれる教員ができた	.145	.709	.097	-.052	-.098
教員との関係がよくなった					
第III因子 グローバル意識の高まり					
環境・貧困問題等に対する意識が高まった					
政治・社会問題への関心が高まった					
地球市民としての意識が高まった					.120
平和に対する意識が高まった					.364
第IV因子 人間関係の充実					
大学での人間関係が充実にできた					.151
社交性が高まった	.118	.088	.000	.722	.087
同じ志を持つ友達が増えた					
第V因子 外国人との交流の達成					
日本人との交流ができた					
様々な国の人との交流ができた	.115	-.106	-.125	.055	.596

分析結果

RQ3 対処方略、留学の成果と満足度との関連

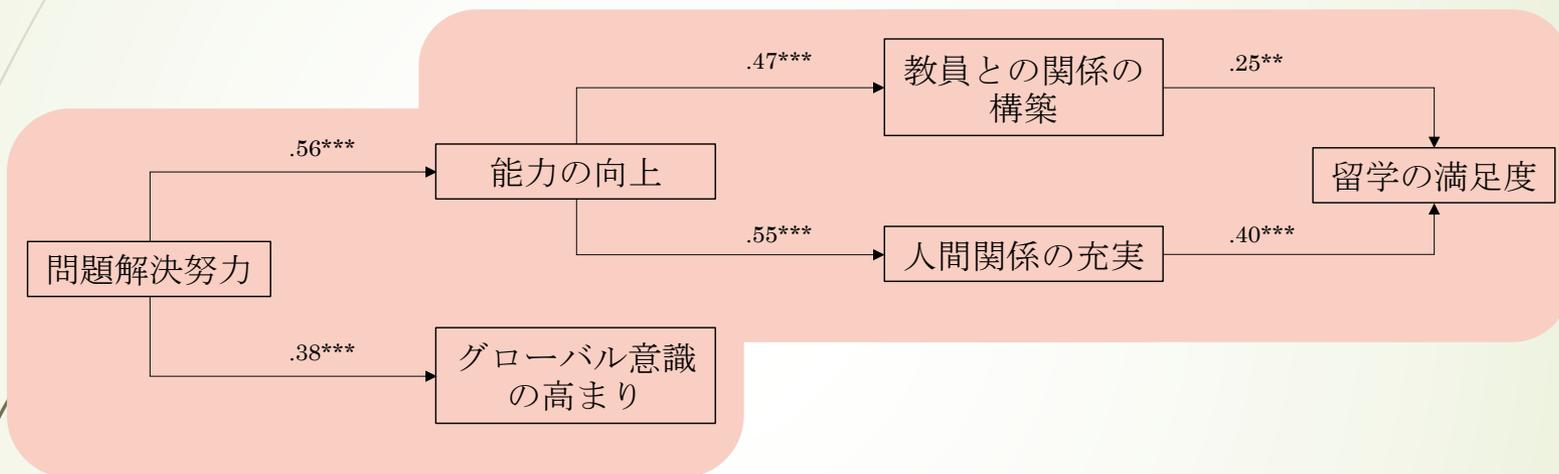
表3 留学の満足度、留学の成果と対処方略との間の相関

	満足度	留学の成果				
		能力の向上	教員との関係の構築	グローバル意識の高まり	人間関係の充実	外国人との交流の達成
留学の成果						
能力の向上	.280**					
教員との関係の構築	.453**	.466**				
グローバル意識の高まり	.276**	.528**	.313**			
人間関係の充実	.522**	.553**	.500**	.295**		
外国人との交流の達成	.116	.507**	.338**	.310**	.347**	
対処方略						
問題解決努力	.296**	.561**	.372**	.382**	.434**	.266**
問題回避（情動）	.238*	.177	.060	.103	.160	.026
問題回避（行動）	.144	-.015	-.046	-.066	-.031	-.060

* $p < .05$ ** $p < .01$

分析結果

RQ3 対処方略、留学の成果と満足度との関連



注 数値は標準化されたパス係数を表している

*** $p < .001$, ** $p < .01$ (誤差変数の表記は省略)

図1 対処方略と留学の成果および満足度に関するパス解析結果

考察

- 困難に直面した際、問題を解決しようと努力する中国人留学生は、能力が向上し、グローバル意識が高まったと認識している。
- 困難を積極的に解決しようとする中国人留学生は、困難に対処するプロセスで試行錯誤（田中・藤原, 1992）を通して、自分のさまざまな能力が向上したと自己認識していることが推測される。また、困難の中で、異文化によって生じる困難も想定され、その対処を通して、環境や社会問題への関心が高まり、グローバル意識が高くなったと考えられる。

考察

- ▶ これまでの先行研究（今留, 2008など）では、対処方略の健康に及ぼす影響が実証されたが、本研究の結果から、中国人留学生にとって、対処方略が能力・意識との間に関連があることが明らかになった。

考察

- ▶ 能力が向上したと認識している中国人留学生は、教員との信頼関係を構築しやすく、人間関係の充実さを感じている。
- ▶ 中島（2003）によると、留学生が親しい関係の形成・維持のための文化スキルを獲得している場合、友人関係を築きやすいとしている。
- ▶ 中国人留学生は、日本において、さまざまな能力が向上することで、周りの人との関係をうまく対処する能力も上がると考えられる。

考察

- ▶ 「能力の向上」因子は、「問題解決能力が高まった」、「ストレス耐性が強くなった」、「論理的思考力が高まった」などの項目から構成されている。中国人留学生は、このような能力が高まると、教員や周りの人にアプローチする能力もある程度高くなると考えられる。そのため、教員との関係が構築でき、人間関係が充実したことが推察できる。

考察

- 教員との関係が構築され、人間関係が充実している中国人留学生は、留学に対して満足を感じやすい。
- 中国人留学生にとって、日本においては、周囲の人との関係の構築や、人との交流によって、さまざまな情報やソーシャル・サポート（周, 1993）の獲得が可能になり、安定した生活を送ることにつながり、満足度も高くなることが示唆される。

まとめ

- 困難への対処方略では、「問題解決努力」が「能力の向上」と「グローバル意識の高まり」に影響を与えており、さらに「能力の向上」が「教員との関係の構築」と「人間関係の充実」を通して、「留学の満足度」に影響を与えている。
- 中国人留学生は日本における生活の中で、さまざまな困難に直面した際、積極的に解決しようと努力することが自分の留學生活への満足度を高める間接的な要因となる。困難を積極的に対処するプロセスで、自分の能力と意識が変化し、人との関係の構築につながっている。

今後の課題

- ▶ 中国人留学生の留学の成果、満足度への他の影響要因
- ▶ 属性（性別、学年、所属専門分野など）の影響
- ▶ 留学の成果と満足度の変化

参考文献

- 今留忍 (2008) 「身体的・精神的健康度に対するコーピングの影響」『日本未病システム学会雑誌』14(2), 147-154.
- 黒田則博 (2007) 「能力開発の観点からの留学の効果に関する調査研究ーインドネシア行政官の日本留学を事例としてー」『国際教育協力論集』10(2), pp.65-79.
- Lazarus, R.S., Forkman, S. (著), 本明 寛・春木 豊・織田正美 (監訳) (1991) 『ストレスの心理学ー認知的評価と対処の研究ー』実務教育出版
- 中島葉子 (2003) 「在日留学生の行動面における文化受容ー日本人の友人に対するコミュニケーション満足度との関わり」『異文化コミュニケーション研究』6, 25-41.
- 尾関友佳子 (1993) 「大学生用ストレス自己評価尺度の改訂ートランスアクションナルな分析に向けてー」『久留米大学大学院比較文化研究科年報』1, 95-114.
- Sam, D. L. (2001). Satisfaction With Life Among International Students: an Exploratory Study. *Social Indicators Research*.53, 315-337.
DOI: 10.1023/A:1007108614571 · Source: RePEc
- 新見有紀子 (2017) 「日本人大学院留学生の授業関連活動への参加と能力・意識の高まりー自己評価に基づく質問票調査の結果よりー」『異文化間教育』46, 125-139.
- 周玉慧 (1993) 「在日中国系留学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み」『社会心理学研究』8, 235-245.
- 田中共子・藤原武弘 (1992) 「在日留学生の対人行動上の困難ー異文化適応を促進するための日本のソーシャル・スキルの検討ー」『社会心理学研究』7(2), 92-101.